

おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 8 号 (6 月 7 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

羽黒の牙城崩せず！ 県総体ベスト8止まり

6月3日(金)県総体準々決勝が小真木原運動公園内の陸上競技場および多目的グラウンドで行われました。山東の相手は県総体3連覇中の羽黒高校。また昨年度は県総体・県新人・選手権をいずれも制し、久しぶりの3冠達成。山形で敵なしのチーム¹。今大会も優勝候補の筆頭。山東は昨年度、その3大会でもいずれも羽黒に負けており、今回勝てば四度目の正直。場所は小真木原の陸上競技場、芝の状態は良好であり、天気もばっちり。保護者会の皆さま、清野会長・奥山副会長・後藤報道局長というOB会の重鎮の方々のみならず、顧問今野と同期のOB(会田、漆山、謙一)も応援に駆けつけている。また遠藤前顧問も満を持して鶴岡入り。前の試合と同様、山東応援団の皆さまも来て下さり、あとは選手が頑張るだけ、という状況。11:00キックオフ。

試合が始まると、膠着状態。山東の攻撃はアウトサイドで分断されており、なかなかインサイドに入って行けていない。山東4、羽黒6といった試合展開。ただ羽黒にもビッグチャンスを作らせていない。羽黒といえば高い攻撃力が売りのように感じてきましたが、この試合、守備が良いとの印象²。特に昨年度から出ていたCDFが素晴らしく利いている。そんな膠着状態の中、前半の中盤、羽黒のCKが訳の分からないままゴールイン。どうやらニアサイドで軌道が変わったボールが山東の選手に当たり、そのまま入ったオウンゴールだった模様。今思えば、ニアサイドでしっかりはね返せば・・・と思いますが、それも実力。相手はチャンピオンチームなだけに、一点が重く感じられる。しかし選手は粘りの山東だけに、声を掛け合い、全然落ち込んでいない。「そうそう、勝負はこれからだ」とベンチで自分を励ましていると、今度は羽黒ペナルティエリア内の混戦で、山東の誇るツインタワーFWの一人が倒されてPKゲット！山東ベンチからは遠くて良く分かりませんが、ラッキーと感じられる審判の笛でした。この日の審判の笛がどちらに有

¹ 羽黒の応援歌の中にも「羽黒、羽黒、山形最強」という文言がありますが、その文言に嘘偽りのない状況です。ただあえて言わせてもらおうと、山形最強を謳い文句にする時期はもう過ぎており、老婆心ながら別な合言葉を見つけても良い時期と思います。県外に出れば、「山形最強だからどうしたの？」と、山形自体がなめられている状況にあり、羽黒高校には山形最強を誇らしく思っても良い段階から脱皮していただきたいと感じています。負けたから恨みっぽく言っているわけではないのですが・・・。

² この印象は、その後、今大会を通じた羽黒の印象となりました。

利に運ぶか、正直戦々恐々だった³だけに、ニンマリ。「なんにつけ一応は絶望的観測をするのが癖」(中島みゆき「あした天気になれ」)の顧問今野は、PKを外してもショックを受けないように、心の準備をしていると・・・コースを狙いに行ったインサイドキックは鋭い反応の羽黒 GK に止められてしまう。「ん～、絶望的観測通りだな」と思った刹那、審判の鋭い笛が響き渡る。PK のやり直し。どうやら羽黒の FP (GK 以外の選手のこと) が PK の蹴られる前にペナルティエリアに入ってしまった模様。もちろんこの場合のルールブック上の判断としては主審のジャッジで正解ですが、どこまで厳密にそのルールを適用するかはなかなか難しいところ。とにかく山東としては助かったジャッジ。しかしその後のやり直し PK も羽黒 GK に止められてしまい、チャンスを逃す。苦しい試合になるのは百も承知、ここからここから、と自分に言い聞かせる。すると前半終了間際、山東の DF ラインがニアサイドに寄ってしまい、ファーサイドが手薄になったのを冷静に見極めた羽黒の選手がファーサイドに走り込み、それを感じた左サイドの選手(というか左サイドを突破した選手)が阿吽の呼吸でファーサイドに冷静なセンターリング。それをしっかり決められ、0 - 2 へ。山東のミスと言えばミスですが、そのミスを的確に突けるのはさすが羽黒という他ない。0 - 2 のままハーフタイムへ。

2 点差がつき、ハーフタイムの選手の表情は決して良いとは言えない。しかし、勝っても負けてても 70 分間走り抜く意思統一がなされている山東選手の表情に迷いはない。性急に 2 点 3 点取りに行こうとして焦るのではなく、ひたむきに 1 点取りに行く気持ちを確認して選手をピッチに送り出しました。

後半も 6 分 4 分で羽黒優勢。正直このチームにとってこの程度の差はこれまでの戦いで当たり前のようにあり、この差を埋める逆転劇を演じてきただけに、諦める気持ちは全く起こらない。ベンチで気持ちを強くもって戦況を見つめていると、後半中盤でまたしても CK からヘディングシュートを決められ、スコアは 0 - 3 へ。1 点目に続く CK での失点。セットプレーでの失点なので、崩されてはいない、と強がることはできますが、そういった球際の強さも含めてサッカーの実力。いよいよ苦しくなってきました。その後山東も、シマヌキの右 CK のこぼれ球から、羽黒キラー? のカル⁴が体をねじりながらのヘディングでボールを羽黒ゴールにねじ込み、一点を返す。1 - 3 へ。この得点ですが、山形東サッカー OB 会 HP の写真でご確認ください。後藤編集長の写真が決定的瞬間をとらえたということなんだろうが、とにかくカルのスゴい体の使いようです。よし、まだ時間は半分ある! と勇気づけられ大逆転劇の幕開けかと思われましたが、なかなかビッグウェーブは起こらず、羽黒ペースを変えることができないままタイムアップ。結局 1 - 3 で敗戦。どこがどう羽黒の強さにつながっているのか、よく分からないままの消化不良の敗戦でしたが、経験上、こういう勝ち方ができるチームは実力があると感じました。とにかく、選手に実力をつけさせるという意味でも試合の采配でリードするという意味でも監督の力量不足は否めませんでした・・・。

タダ主将率いるこのチーム、立ち上げの際にはここまで良いチームになるとは顧問も思いませんでした。いつも顧問の予想を良い意味で裏切り続け、頑張ってくれました。昨年度から続いたそうした旅も、ここに終止符が打たれることになりました。寂しくもあり

³ 今大会、審判とベンチの判断がかみ合わないことが多いとの報告があり、それを恐れて。

⁴ 3 年 FW のカルは昨年度の選手権で羽黒相手に 2 得点し、PK 合戦まで行く立役者となりました。

悲しくもあります。

6月6日(月)県総体決勝翌日、恒例の引退ミーティングが行われ、3年生全員が後輩に残すメッセージを披露。技術的な話というより精神面に訴えかける話が多かった⁵ですが、すべての3年生がチームメート、先輩、後輩、顧問、OB、親などへの感謝の気持ちを述べていたのが印象的でした。これで引退となった3年生諸君、2年間と2ヶ月あまりの部活動生活、お疲れ様！ 3-2-1という前代未聞のシステム⁶で臨んだ一年生大会の惨敗から始まり、諸君は大きく成長しました。2年時に東北大会に行くことになるとは、1年生の段階で誰が想像し得たことでしょうか。オフザピッチでも、先輩後輩の上下関係を体育会系にふさわしいものに変える歴史を作った学年として、長く記憶されるべき学年と考えます⁷。サッカー部で、つらい練習も自分に厳しい姿勢で乗り越えた諸君なら、新しい山も乗り越えることができるはず。諸君の今後に幸あれ！！ とりあえず大学受験頑張りなさい！！

最後になりましたが、大会を通じまして保護者会や保護者の方から差し入れ等、多大なるご支援を頂戴いたしました。感謝申し上げます。

新主将 新副主将 決定

6月6日(月)上記引退ミーティングに先立つ2・3年生による投票にて、新主将と新副主将らが決定されました。新主将はショータ、新副主将はヤマト(ヤマちゃん)、新グランドマネージャー(通称グラマネ)はサカグチとハマジ(ハマ)となりました。ハマのようなムードメーカーがグラマネになるのは恒例といったところですが、今年はGKのサカグチがグラマネになる新しい形となりました(少なくとも今野が来てから初です)。

新チームにも変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。早速下記のように、県リーグが今週末ございます。山東新チームの船出にどうかご声援ください。

6月11日(土) Y1 第6節 VS 山形商業 10:00~ @日大山形G

⁵ 今年の象徴的選手ゴウは、暮れかかる中、何とスポ少の「やまぼうし」から自分のサッカー人生を振り返る大作を披露し、ものすごい反響でした。

⁶ もともとこの学年は当初10人しかおらず、怪我やインフルエンザで試合当日7名しかおりませんでした。実はその試合、なんと山南相手に先制するのですが(その後1-4で惨敗)、先制点を決めたタダも当日インフルエンザで38度を超えていたそうです。

⁷ 上の学年もその歴史の形成に貢献しましたが、徹底度合から考えて、今年の学年の貢献には素晴らしいものがありました。